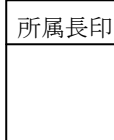


(特研様式5)



早稲田大学総長 殿

2010 年6月25日

所 属 社会科学総合学術院
資 格 教授
氏 名 トラン・ヴァン・トゥ 印

特 別 研 究 期 間 研 究 成 果 報 告 書

1. 研究課題：移行経済の発展戦略とグローバリゼーション
2. 研究期間：2008年3月26日 ～ 2009年3月25日
3. 研究場所（国/都市・機関名）：米国/ケンブリッジ市 ハーバード大学と
ベトナム/ハノイ ベトナム社会科学院
4. 研究成果概要（2,000字以内）：

.....2008年3月26日からいただいた特別研究の1年間を2つの期間に分けて、最初の9カ月を米国ハーバード大学ケネディスクールで、後の3カ月をベトナム社会科学院で過ごした。この機会にベトナム経済の移行と開発について書物をまとめたいので、まずアメリカで理論研究を通じて書物のフレームワークを構築し、最後の3カ月をベトナムでの現地調査と資料収集にした。

アメリカでの最初の2週間に一番苦労したのは、アパート探しである。また驚いたのは住居コストが高いことである。その約一年前に私信で経済開発や中国经济研究の権威であるドワイト・パーキンズ(D. Perkins)教授が「ハーバード大学とその周辺ではお金よりもスペースが稀少である」と書かれたことを思い出しながらインターネットで物件を探したのである。

ハーバードは世界のトップクラス大学であるが、滞在してみてその優れた特徴を確認できた。第一に、アメリカ内外のトップ学生を集め、経済的に困難な家庭から出た入学者に対する支援制度が完備しているのである。ハーバード大学の年間予算の約30%が卒業生や各種財団の寄付によって賄われているが、2008年9月に始まった金融・経済恐慌の下で寄付金の大幅な減少が避けられなくなった。しかし、11月10日付けの教職員へのメッセージで総長(Drew G. Faust 教授)は、財政事情が厳しくなるので管理費の節約、一部の施設拡充投資案件の延期をしなければならないが、学部学生について低所得層でも優秀な学生がハーバードで勉強できるようにしたい(年間収入が6万ドル以下の家庭を出た学生は学費の全額免除、18万ドル以下の場合、学費がその家庭収入の10%以下)と強調したのである。

第二に、学生の学力だけでなく、そのリーダーシップも重視するのである。具体的にどのような入試選抜方法とカリキュラムを実施しているかを調べる時間がなかったが、2008年6月5日の卒業式は大変印象的であった。すなわち、各学部長が卒業候補生リストを総長に提出し、総長がそれを承認してはじめて候補生が正式に卒業するという儀式があったが、リストを提出するとき、各学部長が学生たちの学業だけでなく、彼らのリーダーシップの発揮

